

SOCIUS

No.20

2025

[ソシアス]

仁愛女子短期大学 総合学務センター
入学・地域支援課 地域連携室

INDEX

1. はじめに

- ・地域社会との連携の展開、発展を願って……………重村幹夫 1

2. 公開講座

- ・開学60周年記念シンポジウム……………生活科学学科、幼児教育学科 2
- ・木製ロボットとプログラミングで遊ぼう！……………田中洋一 3
- ・木を使った造形あそびに挑戦してみよう……………重村幹夫 4
- ・教科書「家庭基礎」を通して「保育」を学ぶ……………石川昭義 5
- ・幼稚園教諭・保育教諭等キャリアアップ研修……………増田 翼 6
- ・福井市公私立園合同主任保育士・主幹保育教諭等研修会……………増田 翼 7
- ・世界のお菓手で英語旅～作ってわくわくアジア編～……………木内貴子、野本尚美 8
- ・小枝でゲームをつくろう……………吉村正照 9
- ・Autumn English Camp -自然の中で英語を学ぼう！-……………野本尚美 10
- ・「楽器であそぼう！」……………木下由香 11

3. 包括連携協定の自治体との連携事業

- ・保育研究合同発表会……………増田 翼 12
- ・気になる子への関わり方（永平寺町園巡回）……………中尾繁史 12
- ・森田地区との連携事業報告……………入学・地域支援課 13

4. 保育の魅力発信事業

- 入学・地域支援課 14

5. 地域連携活動報告

- ・フクミラ -関西万博での福井の繊維技術PRプロジェクト……………澤崎敏文 15
- ・子ども用品循環プロジェクト「あげるやもらうや」……………吉村正照 16
- ・地域ケアにおける女性の地域参画の模索……………前田博子 17
- ・福井県民生活協同組合合同プロジェクト -配送マニュアル動画制作-……………辻岡和孝 18
- ・福井県こども・子育て応援計画「やさしい版」を制作……………吉村正照 19
- ・じんたん妖怪縁日……………前田博子 20
- ・「じんあいこどものくに」……………幼児教育学科 21
- ・木づかい体験会……………香月 拓 22
- ・ふくまむ祭2025……………木下由香 23
- ・子どもたちを楽しませるために ～壁面づくりを通して～
……………幼児教育学科 2回生 川崎ゼミ 24
- ・学びをつなぐ希望のバトンフォーラム2025……………幼児教育学科 25
- ・心と心をつなぐ読み聞かせ『JINTANおはなし会』……………木下由香 26
- ・福井県高等学校家庭科技術検定評価講習会
ならびに家庭科教員実技講習会……………幼児教育学科 27

6. 図書館企画展示の活動報告

- 竹下真弓 28

7. 2025年度地域連携活動一覧

- 30

8. 教員の地域活動一覧

- 32

はじめに

地域社会との連携の展開、発展を願って

地域連携室長 重村 幹夫

新幹線に乗車した時のことです。若い夫婦が、1歳ぐらいの女児、5歳ぐらいの男児を伴って乗車してきました。昼食時になると、母親は膝の上の女児に対して「早く食べなさい」と急かすようにしています。私はその様子に不安を感じましたが、不安は的中して、以後母親の怒鳴り声と女児の泣き声が10分15分と続きます。周りを見回すと、通路を隔てて座っている父親は携帯電話をのぞき込むばかりでこの状況にまるで無関心なようです。家族の後ろでは、リタイアしたと思われる老夫婦が顔をしかめています。その後、通りがかった車掌が、あまりの惨状を見かねて「席を変わりましょうか」と私に耳打ちしてくれました。私は、その配慮をありがたく思いましたが、申し出を断りました。

いささかおこがましいかもしれませんが、この母親には助けが必要ではないでしょうか。女児の願いは、母親、父親と一緒に居たいというそれだけのはずです。それでは、男児はどうでしょうか。この状況のなかでも冷静を保ち、女児をかばう姿勢を見せています。

新幹線は臨時列車であったのか、とても空いていて、私を含めたこれら7人が中央に固まって座っているだけであったように思います。私には、車掌を含めた8人が、あたかも社会が抱える問題の一側面を演じる登場人物の様に感じられました。

私や老夫婦は、新幹線の移動を快適に済ませたいと願っています。その点からは、車掌の配慮は乗客への柔軟で的確な対応でしょう。しかし、私はその場に居たいと思いました。あとしばらくするとこの状況から解放されるという計算があったのも事実です。私はストレスを感じましたが、同時に男児の振る舞いに感動してもいたのです。

古来より、我が国では地域社会が助け合って子育てを行ってきたと言われます。私や、子育てを経験

したであろう老夫婦が、その場に介入することはできなかったのでしょうか。今日、核家族化をはじめとした様々な社会環境の変化によって、子育てを取り巻く問題がより顕在化しているように思えます。

本学園の「仁愛」は仏教經典の「仁愛兼濟」という言葉に依っています。「仁」は限りなく支え合う人間関係、「愛」は人間だけでなく、すべての生命の深甚な相互依存、共生の關係に目覚める敬愛の心を意味しています。この仏教の「生命の尊厳と連帯」の精神に目覚めることによって自己の立脚点を確立しながら、同時に社会の福祉と発展のために取組もうという意気ごみを示す言葉が、「兼ねて済すくう」という言葉です¹⁾。この「仁愛兼濟」が本学園の基本精神です。

本学は「仁愛兼濟」の基本精神のもと、学内での教育研究はもとより、その成果を生かした地域連携活動に積極的に取り組んでまいりました。今後も、教育研究活動の成果を生かした地域連携活動を継続、発展させたい所存です。

後注

1) 「和」, 学校法人 福井仁愛学園, 平成 25 年.

公開講座

開学60周年記念シンポジウム

2025年に開学60周年を迎えた本学では、各学科が主催となり、記念シンポジウムを開催しました。

生活科学学科 開学60周年記念シンポジウム

「地域で学ぶ探究のすゝめ」

【開催日時】 10月29日（水）

基調講演では、鷺頭美央副知事をご登壇。「活躍と両立を支える地域へ：わたしらしく生きる力が福井の未来を創る」をテーマに、家庭と仕事の両立に悩んだご自身の経験や、共働き率が日本一である福井県の課題などについて、講演していただきました。

事例報告では、本学の卒業生である小川日子さま（池田町役場）と西澤穂乃花さま（㈱オールコネクト）の2名にお越しいただき、これまで経験された地域に根ざした仕事や仕事に活かされている仁短での学びについて紹介していただきました。また、本学の澤崎教授は、授業設計を振り返り、これまで取り組んできた地域連携活動を紹介しました。

続いてのパネルディスカッションでは、「仕事と家庭の両立」などをテーマにディスカッションを行いました。

地域との連携強化や人材育成の重要性について改めて参加者の皆さんと共有することができたシンポジウムとなりました。



生活科学学科

幼児教育学科 開学60周年記念シンポジウム

「これからの保育のあり方を展望する —幼稚園教育要領・保育所保育指針の改訂を見通して—」

【開催日時】 12月6日（土）

第1部の基調講演では、福井大学教職大学院の教授であり、国の幼児教育ワーキンググループの委員でもある岸野麻衣氏をご登壇。「幼稚園教育要領」や「保育所保育指針」の改訂に向けて国で検討されている内容を報告し、子どもの自発的な活動としての“遊び”が展開するような保育者の援助や環境構成の見直しがより大事になってくると講演しました。

第2部では、岸野教授と幼児教育学科の教員がディスカッションを行いました。今後求められる保育者に必要な資質や子どもに寄り添う保育実践の課題など、参加者を交えて意見を交換しました。

参加者の皆さんとこれからの保育のあり方について考える貴重なシンポジウムとなりました。



幼児教育学科

木製ロボットとプログラミングで遊ぼう！

生活科学学科 生活情報デザイン専攻 教授 田中 洋一

【開催日時】 6月1日（日）10：00～/11：00～

【会 場】 福井県総合グリーンセンター

【参加者数】 親子8組24名

生活科学学科生活情報デザイン専攻の田中洋一です。例年、仁短で開催している公開講座「木製ロボットとプログラミングで遊ぼう！」ですが、令和7年度は6月1日（日）に福井県総合グリーンセンターで行われた第15回みどりと花の県民運動大会「フラワーグリーンフェア」のイベントとして開催しました。参加者は、8組の親子24名（男児8名、女児5名）でした。また、幼児教育学科1年の滝下さん・永友さんが学生スタッフとして活躍しました。

プログラミング教材キュベット（プリモイズ社）は、「直進」「左回転」等の動作を表すブロックをボードにはめ、スイッチを押すと、木製のロボットが指示通りに動き出すおもちゃであり、グッド・トイ2018にも選ばれています。今回のイベントは、次のような流れで実施しました。

- ①あいさつ、今日の約束
- ②手遊び「アブラハムの子」
- ③キュベットと仲良くなろう！※仕組みを確認する。
- ④キュベットのお話を作ろう！
「山の日」編
- ⑤キュベットとクイズをしよう！
「キュベットは、どこへ行く？」
- ⑥青ブロック（サブルーチン）を使ってみよう！
「友だちを誘って、大きな木へ」
- ⑦振り返り

本イベント後のアンケート（家族ごと）によると、「とても満足」が8件であり、感想からも全家族が楽しめたようです。「プログラミング初体験で、とても貴重な経験ができました。お姉さん先生もいて、楽



しく学べたので良かったです。子どもが徐々に興味をもって取り組むようになり、1コマ1コマ頭を使いながら動かしている様子が印象的でした！」「親が思っている以上に、ものごとをしっかりと観察していることに驚きました。」「子どもたちで考えながら参加してくれたのでとても良かった。プログラミングも実際に動くものを体験できたのも良かった。」等の意見がありました。

学生スタッフの感想は下記のとおりです。

「木製のロボットのキュベットを使ったプログラミング体験を通して、遊びながら考える楽しさを感じた。ブロックを並べて、ロボットをうごかすことで、動く順番や仕組みを理解することができていた。子どもでもわかりやすく学べると思った。（滝下）」「キュベットを通して、子どもたちの発想力の豊かさを感じた。また、試行錯誤して挑戦する姿をみて、プログラミングに興味を持ち、楽しんでいたように感じて、うれしかった。（永友）」

小学校からプログラミング授業が実施される現在、幼児向けのプログラミング遊びは重要だと思います。本イベントの参加理由も、プログラミングに興味があった家族が多かったです。今後も継続的に本講座を実施していきたいと考えています。

公開講座

木を使った造形あそびに挑戦してみよう

幼児教育学科 教授 重村 幹夫

【開催日時】 8月5日（火）10：00～11：30

【会 場】 仁愛女子短期大学

【参加者数】 10組32名

今年度も「木を使った造形あそび」の公開講座を実施しました。保護者によるアンケートから、「どんどん考えがわいてくる」、「とても集中している」など、子どもが主体的に創造力を働かせながら活動している様子が見られました。また、昨年に引き続いての

参加者には「家でも色々作るようになった」として、行動変容に結びついている様子もわかり、有意義であったと思います。手伝ってくれた二名のゼミ生にとっても良い勉強の機会になったことでしょう。会場準備や片付けに手間がかかる内容ですが、今年度も開催して良かったと思いました。今後、場所を工夫するなどしてさらに参加可能人数を増やしていけたらと思います。



公開講座写真①



公開講座写真②



公開講座写真③



公開講座写真④

教科書「家庭基礎」を通して「保育」を学ぶ

幼児教育学科 教授 石川 昭義

【開催日時】 8月21日（木）10：00～12：00

【会 場】 仁愛女子短期大学

【参加者数】 高校生4名、保護者1名

高校の「家庭基礎」や「家庭総合」の教科書には、「保育」に関する内容が盛り込まれています。その内容は、子どもの誕生、発達、栄養、遊び、保育制度、子どもの権利など多岐にわたっています。

そこで、この講座では、実際の教科書のページを用いて、保育制度や子どもの権利に関する単元のところを、短大の「保育原理」の授業風に読み解きました。保育施設の種別に係る教科書の説明のところでは留意してほしいことも話しました。

私は、高校生が家庭科の授業で「保育」を学ぶことの意義を次のように考えています。

- (1) 今日に至るまでの自分の成長を振り返り、記憶にないところへの想像力も働かせて、いのちの尊さといのちのつながりに気づく。
- (2) やがて親になるかもしれない自分が、わが子がいる家族の生活を思い描き、乳幼児期にはわが子の保育施設を選ぶことになるかもしれないという見

通しを立てる。

- (3) 将来の仕事として保育職を選ぶかもしれない自分がいて、たくさんある職種の中から保育職を選ぶとすれば、自分なりの選択の理由を考える。

高校の家庭科で「保育」を学ぶことが「保育職」への進路選択につながればと思っています。それは、家庭科での学びが「life（生命・生活・人生・一生）」を切り口として保育につながる要素をたくさん持っているからです。

参加者の感想では、「知っている知識もあったけれど、ほとんどが初めて聞いた知識ばかりで、とても新鮮でした。」「この講座を受けて改めて子育ての現状が分かった。保育に関わる上でたくさんの法律があった。」「保育について少し知識をつけることができて良かった。」「とても分かりやすく、子どもと同年代の人たちと一緒に学べて良かった。」などがありました。短大生の気分を少し先取りして、保育の知識を身につけていただいたことはよかったです。わが子と一緒に受講された保護者がいらっしゃいました。わが子の子育ての思いを振り返る機会になったとすればうれしいです。



令和7年度 幼稚園教諭・保育教諭等キャリアアップ研修

【共催：福井県私立幼稚園・認定こども園協会】

幼児教育・保育現場の現状や課題を考え、乳幼児期の教育の充実及び保育者の資質向上を図ることを目的とする研修会の一つとして、令和5年度から福井県私立幼稚園・認定こども園協会との共催で実施している「幼稚園教諭・保育教諭等キャリアアップ研修」があります。令和7年度も以下の日程・内容で開催しました。

探究的・対話的「音あそび」のススメ

～STEAM教育の視点も踏まえながら～

音は目には見えません。音は形として残るものでもありません。そのため、「音あそび」をテーマとする場合、子ども同士が想いを共有したり、協同して遊び込んだりするというところに特有の難しさを伴うこととなります。それでは、どのような環境を構成すると、子どもが自ずと／自ら音に関わり、そこに楽しさを見つけるような「音あそび」に展開していくのでしょうか。文部科学省が推進しているSTEAM教育の視点も踏まえながら、一緒に体験してみましょう。

【開催日時】 8月26日（火）13：30～16：30

【講師】 増田 翼

【会場】 仁愛女子短期大学F102演習室

【対象】 幼稚園教諭・保育教諭・保育士および
その関係者

保育に興味のある高校生、保育を学んでいる大学生

【受講料】 無 料

当日の講座には、保育関係者約40名の参加がありました。「音あそび」特有の難しさについての講義を行ったあと、実際に、身の回りの素材や道具を使った「音さがし」や、テーマを音で表す「音空間づくり」をグループで実施し、音楽活動の際の環境構成の大切さについてお互いに学び合いました。最後には、参加者全員で輪になって、好きな音を奏でながら即興的に音空間を作り上げる「ドラムサークル」も体験していただきました。



公開講座

令和7年度 福井市公立園合同主任保育士・ 主幹保育教諭等研修会

【共催：福井市こども保育課】

指導計画・記録内容と日々の保育実践とのあいだ
～ICT活用が当たり前になって見えてきた課題～

ICT導入によって、昨年度のデータを参照しながらの文章修正、プルダウンリストのなかから項目を選択し入力、といったことが増えました。こうした新たな記述方法の普及は、便利で時間短縮にもつながる一方、目の前の子どもたちの生活をそのとき感じたように「書き留めるという経験」の減少にもつながっているように思います。AI時代において、保育者の「書き留めるという経験」の重要性について、今一度みなさんで考えてみましょう。

【開催日時】 9月12日（金）14：00～15：30

【講師】 増田 翼

【会場】 仁愛女子短期大学C421講義室

【対象】 幼稚園教諭・保育教諭・保育士および
その関係者

保育に興味のある高校生、保育を学んでいる大学生

【受講料】 無 料

当日の研修会には、約100名の保育関係者の方にご参加いただきました。以下に、参加者の方々から頂戴したご意見の一部を掲載します。

【参加者の気づき】

- 何が大切なのか、何のためのICTなのか考えて活用していくことが大切だと感じた。時代に沿いつつも、保育の専門性を高めていくことが大切だと感じたので、園の実情に合わせて精査していくきっかけにしたい。
- 保育の根幹を維持しつつも業務の削減も必要、というとても難しい課題を投げかけられたように感じるので、早速園に持ち帰り話し合いたい。
- 私たちの基本は子どもの姿を見取って、関わり、共に成長していくことなので、そのためには何が大事なのかを考え、その大事なことをICTやAIに任せていいのか適切に判断していきたい。
- AIの機能によって、今までの業務がとても簡単にできることも知ったので、上手に利用していきたい。



世界のお菓子で英語旅 ～作ってわくわくアジア編～

生活科学学科 生活情報デザイン専攻 講師 木内 貴子
准教授 野本 尚美

【開催日時】 9月13日（土）13：00～15：30

【会 場】 仁愛女子短期大学

【参加者数】 3組7名

勉強で頭がパンパンになったときにはほんのり甘いものを、部活でクタクタになったあとは少ししょっぱいものを。お菓子は、食事の合間に心と体をそっと整えてくれる“潤滑油”のような存在です。のんびりとした気持ちで味わうものだからこそ、その国ならではの文化が色濃く反映されているのもお菓子の魅力です。その土地の気候や風土に育まれた固有の文化に触れる入り口として、世界共通語である英語に親しむことは、とても素敵な経験になります。今回は「お菓子作り×英語学習」のコラボレーション企画として、アジア編をテーマに、台湾のパイナップルケーキを皆さんと一緒に作りながら、楽しく英語に触れてみました。

台湾のパイナップルケーキには、日本との意外なつながりがあるとも言われています。講座では、まず台湾におけるパイナップルの歴史を振り返り、栄養学的な特徴を確認したうえで、ケーキ作りに挑戦しました。

ケーキの焼き上がりを待っている間に、英単語しりとり、英語で国の特徴を聞いて答える連想クイズ、日常表現を扱ったビンゴゲームなどの英語活動を行いました。英単語しりとりでは、これまでに学んだ語を思い出しながら書くことの楽しさを感じてもらえるようにしました。また、ビンゴゲームでは身近な英語表現や文法に無理なく親しんでもらえるよう工夫しました。参加者からは「英語の講座も楽しかったし、台湾料理もおいしかったです。また作ってみたいです。」「お菓子を作りながら、英語も楽しめて良かった。」などの感想が寄せられました。今後も、お菓子作りを通して世界の文化に触れられる講座を企画していきたいと考えています。



小枝でゲームをつくろう

生活科学学科 生活情報デザイン専攻 准教授 吉村 正照

【開催日時】 9月27日（土） 9：30～11：30

【会 場】 仁愛女子短期大学

【参加者数】 6組18名

ひろった小枝を振り回したり、砂のお山にさしてみたり、地面に絵を描いたり。みんな小枝で遊んだ経験があると思います。本講座では、その経験に少しアイデアを加え、ゲームづくりを体験していただきました。

オリエンテーションに続き、机に山積みされた中から、ゲームに適した太さ（直径2～5mm程度）の枝を見つけ、素材の個性を観察しながら枝を選び出しました。そして選んだ枝の中から、ゲームとして成立させるために「できるだけ真っ直ぐな15cm」

の区間を探し出します。

切断には細目の木工用ノコギリを用いました。枝は太くても直径5mm程度であるため、ノコギリを使うのが初めての児童でも容易に切断することができました。その後、切断面や側面をサンドペーパーで磨きます。これは安全性を高めるだけでなく、樹皮や木部の感触の変化を確かめながらの作業となりました。

最後に、その場で実際に遊んでみることで、自作の道具がゲームとして機能することを確認しました。完成後は、自作のゲームに他者を招待して対戦を求めたり、大人数で一緒にプレイしたりする光景が自然発生的に見られました。ご参加いただいたみなさま、ありがとうございました。



Autumn English Camp – 自然の中で英語を学ぼう！ –

生活科学学科 生活情報デザイン専攻 准教授 野本 尚美

【開催日時】 11月1日（土） 9：30～12：00

【会 場】 本学学生ホール・芝生広場

【参加者数】 小学生親子5組16名

【協 力】 福井県キャンプ協会（講師派遣等）

本講座では、福井県キャンプ協会副会長で本学園職員の山田浩隆さんにご協力いただき、小学生親子を対象として、野外活動と英語学習を組み合わせたプログラムを行いました。英語活動としては、本学学生が宝探し、世界クイズ、かぼちゃ割りの三つのアクティビティを実施しました。宝探しでは、カプセルトイに入れた国旗と国のシルエットを手がかりに、学生ホール内で見つけた国を世界地図に貼る活動を行いました。世界クイズでは、関連する国について日本語とイラストを用いて出題しました。また、かぼちゃ割りでは「go forward」や「stop」などの簡単な英語表現を用い、体を動かしながら楽しめる内容としました。いずれも難しい英語を最小限にし、親子や参加者同士の関わりを大切にしながら、無理なく英語に親しんでいただけるよう心掛けました。

英語活動の後には、芝生広場にて薪割りや火起こ

し体験を行い、自分たちで起こした火でマシュマロ焼きも楽しんでいただきました。日常ではなかなかできない体験を、子どもも大人も楽しんでいただけたようでした。

参加者からは「いろいろなゲームや体験を通して英語を楽しく学べた」「体をたくさん使えて楽しかった」「普段できない体験ができてよかった」といった感想が寄せられました。今後も、体験を通して親子で英語に親しんでいただけるような企画を検討していきたいと考えています。



かぼちゃ割り



宝探しで見つけた国を地図で確認



火起こし



マシュマロ焼き

公開講座

「楽器であそぼう！」

幼児教育学科 教授 木下 由香

【開催日時】 11月15日（土）10：00～11：30

【会 場】 仁愛女子短期大学

【参加者数】 親子7組21名

今回の講座は、下記のように活動を進行しました。

- ①いろいろな楽器を鳴らす…タンバリンやカスタネットだけでなく、ギロやレインスティック、オーシャンドラムなど既製の楽器に触れ、楽器の音を楽しんだり音の出る仕組みを学びました。
- ②実際に楽器を作る…身近な素材（紙コップとストロー）で楽器を作りました。
- ③手作りの楽器を鳴らす…『おもちゃのチャチャチャ』にあわせて紙コップギロを鳴らしました。
- ④似ている楽器の音や形を比べる…既製のマラカスと手作りのマラカス、既製のレインスティックと手作りのレインスティックなど音の違いを楽しんでいました。
- ⑤絵本に音をつける…あらかじめ準備した絵本の中から1冊選んでもらい、文中にあるオノマトペや、場面が切り替わる時に楽器を使って音をつけてもらいました。どこでどの楽器を使うか親子で試行錯誤している姿が見られました。

⑥他の人の発表を聴く…発表することに恥ずかしさを感じている子もいましたが、学生が「いっしょにやってみる？」と声をかけると発表に移ることができ、発表を終えると笑顔が見られました。

参加者の大人も子どもも、①や②の活動に楽しさを感じていたことから、自分で作る経験が活動への意欲を高め、満足感や達成感につながったのだと思います。また、初めて鳴らす楽器や、初めて行う活動は、年齢に関係なく「どんな音が出るんだろう」「うまくできるかな」といった期待や好奇心が生まれたようです。大人は、⑥の他の人の発表を聴くことで、新しい視点を得ることに喜びを感じる傾向が見られました。

今後も様々な体験の機会を提供できたらと思います。



市町との包括的連携事業報告

幼児教育学科

令和7年度 保育研究合同発表会

(福井市・仁愛女子短期大学幼児教育学科 合同発表会)

幼児教育学科 教授 増田 翼

2019年度から開始された「保育研究合同発表会」も、2025年度で7回目を迎えました。この発表会は、包括連携協定を結んでいる福井市との協働による開催で、学生の学修成果と現場保育者の研究成果を互いに発表し合い、学びを深める場として位置づけられています。2025年度は、例年通りの「対面発表」および「Web上（YouTubeチャンネル）動画公開」の二本立てによって学修成果・研究成果を互いに共有し合う予定でしたが、残念ながら発表会当日の大雪の影響で、「対面発表」は中止となってしまいました。「Web上動画公開」による2025年度の実施内容の詳細は以下の通りです。

YouTubeによる学修成果・研究成果発表

【公開期間】 1月23日（金）～2月11日（水）

【内 容】

福井市および仁愛女子短期大学からのメッセージ
福井市公私立園の実践を通じた保育内容や研究成果発表
仁愛女子短期大学幼児教育学科2回生「保育総合ゼミナール」学修成果発表

【視聴対象者】

福井市公私立園保育者、仁愛女子短期大学幼児教育学科1・2回生、仁愛女子短期大学入学予定者（高校3年生：入学前教育）
その他、福井県内現場保育者、行政関係者、保育者養成校教職員など

対面開催によるポスターセッション (大雪のため開催中止)

【日 時】 1月24日（土）13:00～15:30

【場 所】 仁愛女子短期大学

【内 容】 ①福井市公私立園 実践を通じた保育内容や研究成果発表

②仁愛女子短期大学幼児教育学科2回生
「保育総合ゼミナール」学修成果発表

【参 加 者】 福井市公私立園保育関係者、仁愛女子短期大学幼児教育学科1・2回生

気になる子への関わり方（永平寺町 園巡回）

幼児教育学科 准教授 中尾 繁史

永平寺町との協定に基づいて、今年度も相互に連携・協力し、園巡回を行いました。

【内 容】 子どもの見方、支援の方法等

【実 施 日】

• なかよし幼稚園

6月6日（月）・12月23日（火）

• 吉野幼稚園

6月12日（木）、12月22日（月）

• 御陵幼稚園

6月11日（水）、12月24日（水）

• 上志比幼稚園

11月25日（火）

• 志比南幼稚園

5月19日（月）

• 志比幼稚園

12月12日（金）

• 松岡東幼稚園

6月5日（木）、6月10日（火）、1月9日（金）

森田地区との連携事業報告

総合学務センター 入学・地域支援課

森田地区まちづくり協議会との協定に基づいて、今年度も相互に連携・協力して様々な事業を行いました。

ハピラインふくい森田駅構内の 夢ギャラリー森田へ作品等展示

- 2025年5月 入学・地域支援課
- 2025年7月 附属幼稚園・仁愛保育園
- 2025年9月 仁短60年のあゆみ
- 2025年10月 生活情報デザイン専攻
- 2026年1月 附属図書館
- 2026年3月 幼児教育学科

●附属幼稚園・仁愛保育園（7月）

『とれたて野菜市』

附属幼稚園と仁愛保育園の年長組の園児、そして、仁愛女子短期大学幼児教育学科の教員・学生が連携し、展示に向けて一緒に制作活動などを行いました。三者が連携して展示を行うのは今年度が2年目です。

今年度は、5月から園児たちが一生懸命育ててきた野菜を販売する「とれたて野菜市」を以下の日程で開催しました。

- ・7月15日（火）附属幼稚園
- ・7月18日（金）仁愛保育園



もりのわフェスタ×文化祭へ参加

10月5日（日）に森田地区で開催された『もりのわフェスタ×文化祭』のポスターデザインを生活情報デザイン専攻2回生の学生が担当しました。学生の作品のテーマは、「絆育む、輪のできる場所」。アニメ風イラストで、とにかく楽しいウレシイ感情が伝わるようにと性差を超えた「友情」が強く感じられる雰囲気に仕上げたということです。



社会実験プロジェクト

「MoRe:Sta. (モリスタ)」への参加

11月9日（日）、ハピライン森田駅の活用を目的とした社会実験プロジェクト「MoRe:Sta. (モリスタ)」に生活情報デザイン専攻の学生が参加し、アクセサリの体験・販売やおみくじ・わなげといった子ども向けの催しを行いました。学生たちは、まちづくりについて学ぶコミュニティデザイン論という授業を受講。実際にまちづくり活動に参画し、学びを深めることができました。



保育の魅力発信事業

総合学務センター 入学・地域支援課

本学では、中学校や高校、保育現場と連携して、保育者や保育現場の魅力を発信する活動を行っています。保育者の仕事を体験する「保育現場体験ツアー」や、高校生が各自で保育に関するテーマを設定し探究活動を行う「保育の課題探究」など、キャンパスに隣接する仁愛女子短期大学附属幼稚園や仁愛保育園で実際に子どもたちや保育者と交流しながら開催しています。本学の充実した学習環境を活用して、将来の福井の保育を担う人材となる中学生や高校生に、「保育」への興味・関心や学びを深めてもらう機会を提供しています。

●保育現場体験ツアー

仁愛女子短期大学附属幼稚園で、高校生が「1日幼稚園の先生体験」をしました。さまざまな遊びで子どもたちと楽しく過ごしたり、園児が降園した後は幼稚園の先生の仕事を一緒に体験したりと、高校生に幼稚園の先生の魅力を感じてもらいました。

7月29日（火）参加人数38名

12月25日（木）参加人数31名



●保育の課題探究

保育に関心を持つ高校生が参加し、グループで一つの課題に取り組んだり、個人で興味のあるテーマを調べたりと、さまざまなやり方で探究活動を実施しました。実際に仁愛保育園に行き、子どもたちの様子を観察して情報収集し、本学教員のアドバイ

スを受けながら、理解を深めました。最後に探究の成果をスライドにまとめ、発表をしました。

7月30日（水）参加人数6名



●高校個別の「保育現場体験」

高校生が高校からバス等で本学に来学し、附属幼稚園での保育体験や本学幼児教育学科の授業体験、ランチ体験などを体験しました。

6月24日（火）啓新高校

9月24日（水）坂井高校

2月24日（火）足羽高校



●学生がゲストティーチャーとして参加

進明中学校の家庭科の授業に幼児教育学科の学生が参加。保育園訪問を控えた3年生へ、幼児との関わり方や大切なポイントを伝授しました。



地域連携活動報告

フクミラ - 関西万博での福井の繊維技術PRプロジェクト 【連携団体等：福井大学産学官連携本部】

生活科学学科 生活情報デザイン専攻 教授 澤崎 敏文

【開催日時】 8月16日（土）～8月17日（日）

【会 場】 大阪・関西万博会場

【参加者数】 5名

〈実施目的〉

福井大学と共同で研究活動を進めているフクミラプロジェクトにおいて、大阪・関西万博で技術PR活動を実施しました。

〈実施内容〉

8月16日～17日に、万博会場内に設置された文部科学省「わたしと未来、つながるサイエンス展」のフクミラブースにスタッフとして参加し、来場者への案内や研究成果の紹介を行いました。

また、17日に実施されたステージでのパネルディスカッションには学生2名が登壇し、これからの服の

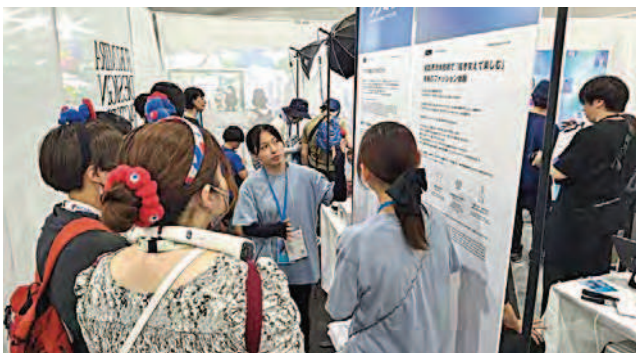
未来やファッションへの思いなどについて、若い世代の視点から技術発展に関する議論を深めることができました。

〈実施結果・参加者の感想〉

今回の活動を通して、参加した学生からは「フクミラの技術を来場者に伝えるだけでなく、自身も地元・福井の最先端の繊維技術に触れ、理解を深めることができた」という感想が寄せられました。

また、技術面だけでなく、地元福井の魅力を多くの来場者に発信できた2日間でもありました。

さらに10月には、これらの経験や成果をまとめ、ハピラインふくい森田駅にてパネル展を実施し、多くの方々に活動内容を知っていただく機会を得ることができました。



来場者に説明する学生1



来場者に説明する学生2



森田駅での活動成果報告展



パネルディスカッションの様子

子ども用品循環プロジェクト「あげるやもらうや」

生活科学学科 生活情報デザイン専攻 准教授 吉村 正照

【開催日時】 5月31日（土）、10月18日（土）、
11月9日（日）

【会場】 仁愛女子短期大学、森田駅

【協力】 仁愛女子短期大学附属幼稚園

「あげるやもらうや」とは、子育て世代を対象に、子ども用品を循環させるプロジェクトです。附属幼稚園の在園児・卒園生の保護者のみなさまに「あげるやさん」になっていただき、子ども服やおもちゃを中心に約500点の品物が集まりました。

5月は本学体育館、10月は本学学園祭、11月にはハピライン森田駅にて無料配布を行い、たくさんの品物が子どもたち（もらうやさん）に渡っていきました。

【品物もらった方からのメッセージ】

かわいいぬいぐるみをありがとうございます。体育館で見つけた瞬間から気に入って、ずっと抱っこしています。あげるやさんが大切にしていたぬいぐるみ、これからは私が抱っこして、よしよしして大切にします♪

5月のイベントの様子は日刊県民福井に掲載いただきました。開催にあたり仁愛幼稚園の教職員・保護者のみなさまには多大なるご協力を賜りました。ありがとうございました。



配布の様子（本学体育館）



運営スタッフ（吉村ゼミ生）



ぬいぐるみをもらったお子さん



配布の様子（ハピライン森田駅）

地域ケアにおける女性の地域参画の模索

生活科学学科 生活情報デザイン専攻 准教授 前田 博子

女性を中心とした地域創生イベント等の多様化がこれからの働き方や関わり方を変えている。結婚、出産を通して働き方そのものの裾野が広がる一方、女性としての働き方は未だ問われ続けている。その中でも地域ケア、ケア労働に重きを置いた事業の参入がみられるようになった。少子高齢化が進む一方で地域ケアはこれからの若者に課せられた課題をコミュニティナースやデザイナー、個人事業主として働く本学卒業生の仕事内容を聞き、女性の働き方や地域ケア等の参画について多様な選択肢から自身にあった選択肢を選択できる学生を育成するプログ

ラムを実施した。

非医療従事者であっても地域ケアを学ぶ場「コミかる」を教授してもらったため、今後も学生が主体的に参加することができ、イベント運営等においては、関わるスタッフの職種や背景が多岐にわたるため、個々の生活基盤やライフスタイルに合わせて柔軟に関わり方を選択できることがわかった。

※本事業は未来協働プラットフォームふくい推進事業の「福井版PBL支援分」に採択された事業です。



図1：#みんなもこになる似顔絵WS風景



図2：#みんなもこになる似顔絵 描いてもらった似顔絵



図3：講演終了後に加藤さんに駆け寄る学生



図4：授業終わりに「こみカル」に参加した学生

福井県民生活協同組合合同プロジェクト - 配送マニュアル動画制作 -

【連携団体等：福井県民生活協同組合】

生活科学学科 生活情報デザイン専攻 教授 辻岡 和孝

辻岡ゼミのデザインチーム（中野、永宮、渡辺）は、「自分たちのデザイン力や編集力を活かして地域貢献したい」という思いから、福井県民生活協同組合（以下、生協）さんの配達員向け教育マニュアル動画を制作する合同プロジェクトを立ち上げました。

現場ではこれまで紙のマニュアルが使われていましたが、「作業の細かい動きや、現場での判断基準が文字や写真だけでは伝わりにくい」という課題がありました。そこで、動画の強みを活かして作業手順をわかりやすく視覚化し、ミスを減らして教育がスムーズに遂行するような動画マニュアルの作成を目指しました。

制作にあたっては、生協さんと打ち合わせを重ねて動画にする部分を決め、チーム内で3つのパートに分担しました。その後、COOP宅配福井センターに足を運んで作業風景を撮影し、スマートフォンの動画編集アプリ（CapCut）を使って編集を行いました。6月に企画をスタートしてから、撮影や生協さんとの確認・修正を何度も繰り返しながら、約半年がかりで作業を進めてきました。

この取り組みを通じて、紙では伝えきれない細かいニュアンスを、動画であれば明確に表現できると実感しました。一方で、「相手にしっかり伝わる動画」を作るためには、画面に文字を出すタイミングや

言葉選び、動画のテンポなど、些細な工夫が分かりやすさを大きく左右することも学びました。

現在、動画は最終仕上げの段階に入っています。この動画が、現場で働く配達員の皆さんの作業効率アップや、研修の負担軽減に少しでも役立つことを願っています。

最後に、親身になってアドバイスをくださった福井県民生活協同組合の山口様、堀様、小針様に心より感謝申し上げます。



COOP 宅配福井センターにて配送の様子を撮影



動画マニュアルの確認会の様子



作成した動画マニュアル

地域連携活動報告

福井県こども・子育て応援計画「やさしい版」を制作

【連携団体等：福井県 健康福祉部 こども未来課】

生活科学学科 生活情報デザイン専攻 准教授 吉村 正照

福井県が2025年3月に策定した「福井県こども・子育て応援計画」。この計画を子どもたちや若い世代に広く知ってもらい、県の政策に親しみをもち、もらうことを目的とした小冊子「やさしい版」を、吉村ゼミの学生4名が制作しました。

プロジェクト着手にあたり、まずは100ページ弱に及ぶ計画書の内容を深く理解する必要がありました。そこで、AI搭載のリサーチアシスタントツール「Google NotebookLM」を活用し、情報把握のスピードアップを図りました。また、台割（内容や構成の設計図）の作成から最終的なデザインに至るまで、全工程でコラボレーションデザインツールの「Figma」を導入。生活情報デザイン専攻らしいアプローチで制作を進めました。

完成したA5サイズ・12ページのパンフレットは10月に発行され、福井県のホームページでも公開されています。10月17日～11月30日には福井県立図書館にて活動報告の展示が行われました。さらに1月26日には、福井県こども未来課と協働で清水中学校の3年生を対象とした出前講座を実施。中学生に直接

冊子を手渡して内容を紹介したほか、グループワークでは学生たちがファシリテーターを務め、中学生の率直な想いを引き出しました。これらの活動はFBC、日刊県民福井、福井新聞といった多くのメディアでご紹介いただきました。



やさしい版の内容



展示の様子（福井県立図書館）



出前講座の様子（清水中学校）

地域連携活動報告

じんたん妖怪縁日

【連携団体等：福井新聞社】

生活科学学科 生活情報デザイン専攻 准教授 前田 博子

【開催日時】 11月15日（土）、16日（日）、24日（月）

【会 場】 エルパ内エルパスペース

福井新聞社主催の特別展「THE 奇談 妖怪絵師 マット・マイヤーの世界」の開催に伴い、連動イベント「じんたん妖怪縁日」を企画・実施しました。本イベントでは、ロゴやポスター等のビジュアルデザインをはじめ、メイン会場である福井新聞社「風の森ホール」への誘導を目的とし、エルパ内に買い物に来た家族づれが会場に足を運んでもらえるように3つの体験型コンテンツを企画・運営しました。

- 「狐面づくり」自分だけの面をつくり、妖怪の世界観へ誘うきっかけを提供
- 「ガチャガチャ」鑑賞無料券と学生が考えた妖怪シール作成。
- 「スタンプラリー」台紙・スタンプのデザインをはじめ、誘導のためのデザインも考えました。

本学が開学60周年を迎えたことを踏まえて、会場は還暦の赤に揃える工夫を行いました。

企画・運営をおこなった学生は「イベントを運営するにあたってデザインなどあまり得意ではないことに挑戦したが結果的に得意な人が最終的に仕上げて

くれるという場面が何回かあった。だからといって得意な人に任せきりにするのではなく、自分は何が得意なのか、強みはなにか、なにでこのチームに役に立てるのかという点をそれぞれのメンバーが考えることが協働において大切」と述べており、他にも「チームの中で、お互いのできることや強みを理解して取り組むことで、それぞれが責任を持って尊重し合うことができ、より充実した協働ができると思った。」と述べており、自らの行動が互いに支えになったという感想が寄せられました。



スタンプの台紙



制作ポスター



マットマイヤー氏と一緒に



狐面づくり

地域連携活動報告

地域の子どもたちから大人気のイベント 「じんあいこどものくに」

幼児教育学科

【開催日時】 10月18日（土）10：00～12：30

【会 場】 仁愛女子短期大学

と保護者の方に参加していただき、とても楽しい一日となりました。

仁愛女子短期大学幼児教育学科では、2009年度から、10月に開催される仁短祭の一環として、「じんあいこどものくに」を実施しています。自分たちで出し物を企画し、地域の子どもたちと触れ合い、一緒に楽しく遊ぶ体験を通して、学生の保育実践力を育成することを目的としています。

子どもたちに楽しんでもらえるようにと、いろいろな遊びを企画し、当日は、たくさんのお子さま

企画は次の通りです。

- 楽器作りワークショップ
- 「おねえさんといっしょ！」（ダンス）
- クイズラリー
- コースターころころ
- ドカン！ピンころん
- キッキングスナイパー
- 【ステージ発表】 劇 “シンデレラ”



木づかい体験会

【連携団体等：福井県農林水産部県産材活用課】

幼児教育学科 准教授 香月 拓

【会 場】 認定こども園あわたべ、
緑幼稚園、春江中保育園、
たんぼぼ認定こども園

将来的なふくいの木の利用者であり、これからの福井県を担っていく未就学児を対象に、本学の学生がこども園等を訪問し、ふくいの木で作られた遊具や玩具を通じた触れ合いの中で、ふくいの木の良いところを伝える取組み。

今年度で6年目の活動になります。今回は福井県産のスギとヒノキを用いた「リユールシロフォン（円形木琴）」を作りました。実施した園では、毎回熱心にやすりをかけたり、色を塗ったり、夢中で制作に取り組む園児たちの姿がありました。さらに、完成したシロフォンにはビー玉を入れて音を奏でるのですが、ビー玉の代わりにどんぐりを入れる園児がいたり、そこからいろいろなものを入れて音の違いを確かめるように遊び込む姿が見られました。

最後に「木づかい体験会」に参加した学生の感想を掲載します。

- やすりのかけ方や色の配色、そして遊んでいるときも、自分では思いつかないような自由な発想で取り組む姿が印象的だった。
- 保育者の声掛け一つで子どもの遊びが広がることを学んだ。
- 限られた時間の中で完成することが難しい園児もいたため、もう少し時間に余裕をもって取り組めるとよかった。
- 木の手触りや重さ、音、において、木の種類によって異なる色や木目など、木の玩具作りは五感すべての発達につながると感じた。



地域連携活動報告

ふくまむ祭2025

【連携団体等：福井新聞社】

幼児教育学科 教授 木下 由香

【開催日時】 10月5日（日）10：00～15：00

【会 場】 福井新聞社1階 風の森ホール ほか

福井新聞社主催の『ふくまむ祭2025』で、木下ゼミの学生4名がステージで“楽器あそび”と“ふく育ダンス”を行いました。

“楽器あそび”では、楽器あてクイズで鈴やギロ、タンバリンなどの楽器を紹介し、子どもたちに楽器を配り、『しあわせなら手をたたこう』『おもちゃのチャチャチャ』の音楽に合わせて鳴らす活動、最後には、会場の皆さんと一緒に〈ふく育ダンス〉を踊りました。

また、ステージイベントのほかに新聞プールのコーナーも担当しました。

子どもたちと新聞紙をちぎったり、細長くちぎった新聞紙に埋もれたり、ふわっと投げたり、布団のように見立てて想像を膨らませて遊びました。親子2,500人が来場し、たくさん子どもたちと触れ合えて、楽しい時間を過ごすことができたことはもちろん、保護者の方々からも「自宅ではできない遊びを体験できてありがたいです」といったお声をいただきました。

この様子は10月6日（月）の福井新聞で取り上げられました。



地域連携活動報告

子どもたちを楽しませるために ～壁面づくりを通して～

【連携団体等：公益財団法人 がんの子どもを守る会】

幼児教育学科 2回生 川崎ゼミ

(石村愛莉・杉本未緒・武田優梨加・前田愛・山本心響・笠川夢叶)

がんと闘う子どもたちがいることを知る機会はその多くはありません。そんな中、「がんの子どもを守る会」の存在を知り、活動内容の説明を聞き、壁面装飾の依頼を受けました。小児病棟にいて会うことのできない子どもたちに、自分たちが作ったものを「がんの子どもを守る会」を通して届けるという直接の触れ合いが伴わない活動に、当初は戸惑いました。しかし、会うことができない分、「子どもたちを楽しませたい」という思いが強くなり、壁面を通して少しでも笑顔になってほしいという願いをもって活動に取り組みました。

12か月分の季節や行事を考えながら、最初は試行錯誤の日々でした。装飾が落ちることによる誤飲を防ぐこと、手間をかけずに掲示できること、見て明るい気持ちになれること等を考えながら、自分たちも楽しみながら制作を行いました。

色の配色を明るくしたり、素材を工夫したりするだけでなく、クリスマスの

オーナメントを自分で飾れるようにしたり、おみくじを引いて楽しめるようにしたり、いちご狩りのいちごが実際に収穫できたりと、様々なアイデアも見られました。

実際に子どもと会ったり、触れ合ったりすることはできない活動でしたが、子どもの笑顔を想像しながら考える経験は、今後にもきっと活かされることと思います。



学びをつなぐ希望のバトンフォーラム2025 「ふくい18年教育 ～遊び・学び続ける探究者～」 【連携団体等：福井県教育庁義務教育課・福井県幼児教育支援センター】 幼児教育学科

【開催日時】 11月20日（木）13：00～16：30

【会 場】 福井県生活学習館（ユウ・アイふくい）

【参加者数】 幼児教育学科2回生

幼児教育学科では、毎年、福井県幼児教育支援センターにご協力いただき、幼小接続についての授業を行っています。福井県が力を入れている幼小接続に関して、今後保育者になろうとしている学生にもっと身近に感じてほしいと願い、県が主催する「幼児教育フォーラム」に参加しました。

ポスターセッション、講演会、グループ協議に参加する中で、学生は、緊張している様子は見られたものの、自分なりの言葉で感じたことを伝え、学びを深める機会となりました。

【学生の感想より】

- 幼小の接続について、一人一人の子どものことを伝えることが大切なのは分かっていたが、そうしたことが小学校でどのように活用できるのか、小学生の先生の話聞いて面白いと思ったし、保育でも参考にできそうなところが多くあると感じました。
- 今までの実習で見てきた子どもたちの遊びが、小

学校の授業でどうつながっているか現場の先生から話を聞き、園での経験がとても大切になると改めて感じました。

- 幼児期のあそびは、子どもの成長においてとても大切だと思いました。
- グループ協議で、現場で働く保育者の話を聞き、職員との連携がとても重要であると改めて分かり、とても勉強になりました。
- 子どもたちの今後の学びにつながるような援助ができる保育者になりたいと思いました。

改良点はまだまだたくさんありますが、今後も、県と協力しながら続けていきたい取組の一つだと感じています。



心と心をつなぐ読み聞かせ『JINTANおはなし会』

【連携団体等：福井県「保育の仕事の魅力発信に資する事業」】

幼児教育学科 教授 木下 由香

【開催日時】 1月31日（土）10：00～11：00

【会 場】 仁愛女子短期大学

【参加者数】 親子7組16名

本学幼児教育学科は、北陸で唯一の認定絵本士養成講座を開講しており、これまで110名の「認定絵本士^{*}」を輩出してきました。（※認定絵本士とは、絵本に関する専門知識や技能を持つことを証明する資格で、国立青少年教育振興機構が認定しています）

今回初企画となるおはなし会では、今春「認定絵本士」称号を取得した2名が、出演に手を挙げてくれました。前半は「食べ物」をテーマに、オノマトペ絵本やピアノの音色にのせた読み聞かせ、手遊びうたなどを紹介しました。後半は、福井県立図書館司書で絵本専門士の田中智美氏に科学絵本ワークショップをお願いし、親子でワイワイ楽しみながら取り組む姿が見られました。

アンケートでは、「さまざまな絵本を親子でゆっくり楽しめてよかった」「ワークショップが楽しそうだった」「とても楽しんでいたので来てよかったです。ありがとうございました」「おはなしだけでは

飽きますが、活動がありちょうどいいと思いました」「手遊びも交えた絵本の読み聞かせで、子どもが楽しそうにしていました。ありがとうございました」「認定絵本士という資格があることを知らなかったが、読むスキルという点や、体験の要素を取り入れたりと、とても参考になりました」という感想をいただきました。絵本は保育や子育てにおいて、語彙力、想像力、感受性、他者との信頼関係、共感力、集中力、生活習慣や社会性などの育成に深く関わり、保護者の皆様も絵本の重要性を感じておられました。今後も絵本の魅力を発信し、本学の「認定絵本士養成講座」の認知度を高めていきたいと思えます。

本イベントの様子は、2月2日（月）の福井新聞でも取り上げていただきました。



令和7年度 福井県高等学校家庭科技術検定評価講習会 ならびに家庭科教員実技講習会

【主催：福井県高等学校家庭科技術検定委員会】
幼児教育学科

【開催日時】 8月5日（火） 9：20～12：45

【会 場】 仁愛女子短期大学

【参加者数】 福井県内高校の家庭科教員30名程度

福井県内の高校の家庭科の先生方の講習会が、本学を会場に開催されました。

「家庭科」の中には「保育」に関する学習が含まれており、本学幼児教育学科の石川昭義教授と増田翼教授が講演をさせていただきました。石川教授からは、「家庭基礎」や「家庭総合」で取り扱われる保育領域について詳しく解説をさせていただきました。

続いて、増田教授からは、高校生が保育体験をする意義や本学がこれまで実施してきた高校生対象の保育体験の事例紹介を行いました。

また、キャンパスに隣接する仁愛保育園の見学も行い、実際に子どもと触れ合うことができる保育体験の意味を感じ取っていただきました。本日の講習が、高校家庭科の保育に関する学習に役立てていただけると幸いです。

また、高校生のみなさんが保育の学習を通じて、保育に関心を持つきっかけとなることを願っています。



石川教授の講演の様子



増田教授の講演の様子



仁愛保育園見学の様子①



仁愛保育園見学の様子②

図書館の活動報告

附属図書館 竹下 真弓

図書館では、新たな本や知識との出会いの場として、様々な企画展示を行っている。ここでは、2025年度に実施した展示・企画を紹介する。

●2025年 4月

「本屋大賞受賞作品展」

2025年本屋大賞受賞作『カフネ』阿部暁子著をはじめ、候補作品あわせて10冊を展示した。

仁短の学生・教職員だけでなく、森田地区の利用者にも人気の展示だった。



などは、展示している図書を手に取り借りていく学生が多く見られた。

●2025年 5月

「開学60周年記念展」

仁愛女子短期大学は、今年で開学60周年という大きな節目を迎えた。これを記念して開催した展示では、開学当初である昭和40年～45年頃に焦点をあて、当時のキャンパスの様子や授業風景、学生たちの活気ある日常を紹介した。創立間もない校舎の写真や、家政科・保育を中心とした授業の記録、クラブ活動や学園祭の様子など、貴重な写真を公開した。

学生の間で特に話題となったのが、当時の髪形やファッションである。写真を見た瞬間に「今と全然ちがう！」という驚きの声があがり、60年前の学生生活が一気に身近に感じられる展示となった。

●2025年 4月

「ご入学・進級おめでとう！」

新しい学びや新生活が始まる時期に合わせ、学生の「知りたい」「深めたい」という意欲に応えることを目的として、様々なジャンルの図書37冊を紹介した。

一人暮らしの学生用に簡単に調理できるレシピ本



●2025年6月

「やなせたかし特集」

NHK朝ドラ「あんばん」でおなじみのやなせたかしの作品を紹介する展示を開催した。本学に所蔵している絵本や詩など16冊を展示し、作品に込められた“やさしさ”と“勇気”のメッセージを感じられる内容となった。

学生からは、「言葉がやさしくて、心がほっとする」といった声が聞かれた。



●2025年9月

「図書館サポーター選書本」

後期の授業開始に合わせ、図書館サポーター5名が選書した本など23点と手作りのPOPを添えて展示した。同年代の学生が選ぶ図書は、毎年貸出が多い人気のコーナーになっている。



●2025年11月

「開学60周年の特別企画」

「仁愛学園創立者 禿了教先生とすみ先生の軌跡」を開催した。

栗津永子氏が出版された『仏教徒禿すみの同志社女学校時代』、『世界宗教探求 禿了教著 現代語訳』の2冊とともに、その文中にある了教氏が寄港・視察した世界地図（㈱アイ提供）を紹介した。

今回の展示は、創立者の想いと歩みを改めて見つめ直す貴重な機会となった。



●2025年12月

「第13回青空文庫表紙コンテスト」

Webサイト「青空文庫」から3作品（今年は、『杜子春』・『春の日』・『青ひげ』）を図書館が選び、作品の持つ魅力を一層際立たせる表紙を選ぶコンテストを実施した。

受賞作品はどれも自由な発想と表現力が光り、物語の世界観を新たな角度から楽しませてくれるものだった。



※今年度優秀賞受賞作

それぞれの企画で展示した本の詳細等は、附属図書館HPへ。



図書館HPのQRコード

2025年度 地域連携活動一覧

分類	講座名・イベント名等	学科・専攻 担当者
公開講座	開学60周年記念シンポジウム「地域で学ぶ探究のすゝめ」	生活科学学科 生活情報デザイン専攻
	木製ロボットとプログラミングで遊ぼう！Inグリーンフェア	情 田中洋一
	Autumn English Camp ー自然の中で英語を学ぼう！ー	情 野本尚美
	世界のお菓会で英語旅～作ってわくわくアジア編～	情 野本尚美・木内貴子
	小枝でゲームをつくろう	情 吉村正照
	開学60周年記念シンポジウム「これからの保育のあり方を展望する」	幼児教育学科
	教科書「家庭基礎」を通して「保育」を学ぶ	幼 石川昭義
	幼稚園教諭・保育教諭等キャリアアップ研修会	幼 増田 翼
公開講座(福井市共催)	指導計画・記録内容と日々の保育実践とのあいだ～ICT活用が当たり前になって見えてきた課題～	幼 増田 翼
公開講座	楽器であそぼう！	幼 木下由香
	木などを使った造形あそびに挑戦してみよう	幼 重村幹夫
自治体との連携事業 (包括連携協定)	福井市総合計画審議会 (福井市総合政策課) 学生1名推薦	生活科学学科 生活情報デザイン専攻
	クリエイトフクイプロジェクト (福井市広報プロモーション課) 学生3名参加	生活科学学科 生活情報デザイン専攻
	とれたて野菜市	幼児教育学科
	2025年度保育研究合同発表会	幼児教育学科
	「もりのわフェスタ×文化祭」(森田地区)のポスターデザインを担当【グラフィックデザインⅢ】	情 西畑敏秀
	MoRe:Sta.(モリスタ)出店 【コミュニティデザイン論】【ゼミ】	情 内山秀樹・吉村正照
	園巡回(永平寺町)	幼 中尾繁史
地域連携活動	福井市・女性活躍促進課による出前講座 【キャリアプランニング】	田中洋一
	福井大学(大学院)「技術経営のすすめ」受講生と協働でワークショップ	情 澤崎敏文
	福井県消費生活センターとの連携による特別授業 【生活経営学】	情 澤崎敏文
	学生が「県警サイバー犯罪捜査官募集」のデザインを担当【グラフィックデザインⅠ】	情 吉村正照
	サイバー犯罪の危険性を伝えるクリアファイルを制作	情 吉村正照
	サイバー防犯ボランティア広報啓発コンテスト 動画ファイナリスト	情 吉村正照
	福井県警サイバー防犯ボランティア	情 吉村正照
	WAKASAアートキャンプ2025	情 吉村正照
	アートプロジェクト「景色のかげら」	情 吉村正照
	じんあいこどものくに	幼児教育学科
	ホームカミングデー	幼児教育学科
	ゆりフェスタで「木のおもちゃづくり」ワークショップ	幼 木下由香
	JINTANおはなし会	幼 木下由香
	坂井市保育研究会出前授業	幼 重村幹夫
	染めもの体験(仁愛保育園の園児対象)	情 前田博子
	県文化芸術推進会議の学生ワーキンググループに学生1名参加	情 吉村正照
	ゼミ・課外活動	北陸技術交流テクノフェア2025 【企業研究Ⅰ】

分 類	講座名・イベント名等	学 科・専 攻 担 当 者
ゼミ・課外活動	“手話×英語”のワークショップ	情 野本尚美
	福井県消費生活センターとコラボ！動画制作プロジェクト	情 澤崎敏文
	福井県技能士連合会との動画プロジェクト	情 澤崎敏文
	坂井市のイベントにて体験ブースを出展	情 辻岡和孝
	福井県民生協共同プロジェクト 配送手順マニュアル動画作成	情 辻岡和孝
	子ども用品循環プロジェクト「あげるやもらうや」	情 吉村正照
	じんたん妖怪縁日	【プロジェクト演習】 情 前田博子
	福井県こども・子育て応援計画「やさしい版」を制作	【ゼミ】 情 吉村正照
	福井県こども・子育て応援計画の周知広報のための出前講座 (清水中学校)	【ゼミ】 情 吉村正照
	「クラフト・コラボSP」中山商事×コクヨMVP（福井県児童科学館）	情 澤崎敏文
	エンゼルランドふくいでの親子イベントに参加①	幼 増田 翼
	エンゼルランドふくいでの親子イベントに参加②	幼 増田 翼
	ふくまむ祭	幼 木下由香
	附属幼稚園でスライムづくり	幼 香月 拓
	木づかい体験	幼 香月 拓
	「シンデレラ」の劇の鑑賞会（附属幼稚園と仁愛保育園の年中・年長児）	幼 川崎恵理
	「がんの子どもを守る会」を通して、小児病棟に製作した壁面を届ける活動	幼 川崎恵理
未来協働プラットフォーム ふくい推進事業	フクミラ - 関西万博での福井の繊維技術PRプロジェクト	情 澤崎敏文
	地域ケアにおける女性の地域参画の模索	情 前田博子
	共感でつながるアサーション入門：感情とニーズに気づく (未来協働プラットフォームふくいリスキリング講座)	情 田中洋一
	学びをつなぐ希望のバトンフォーラム2025（幼小接続講座） 「ふくい18年教育～遊び・学び続ける探究者～」	幼 木下由香
保育の魅力発信事業	坂井高校2年生『保育体験ツアー』	幼児教育学科
	啓新高校3年生『保育体験ツアー』	幼児教育学科
	足羽高校2年生『保育体験ツアー』	幼児教育学科
	「保育現場体験ツアー」	幼児教育学科
	「保育現場体験ツアー」	幼児教育学科
	進明中学校での保育説明会	幼 増田 翼
国際交流	授業「国際理解」で台湾現地研修	情 澤崎敏文・野本尚美
学内活動	開学60周年記念懸垂幕制作	情 前田博子
	開学60周年記念特別AH	CI委員会
	成道会 特別講演「女性として、そして、自分として生きて行くこと」	CI委員会
	追弔会・讃迎会 特別講演 「ウクライナ戦争と市民生活 -いのちを守る」	CI委員会
	球技大会 feat.福井ブローウィンズ	学び支援課
	安全講習会を開催	学び支援課
	森田小学校6年生探究活動	入学・地域支援課
	森田中学校職業体験	附属図書館

教員の地域活動一覧

●生活科学学科 生活情報デザイン専攻

(専攻別・五十音順)

専門分野	氏名	講演や講座のテーマ・内容など
経営学	小形 光雄	●簿記入門
栄養管理	木内 貴子	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもの食の問題と栄養 ●「おいしい」と「健康」は両立できるのか？ ●「食べる」からはじめるフレイル予防～低栄養予防のための食生活～ ●栄養バランスってなに？みそ汁を作りながら考えてみよう。 ●世界のお菓子で英語旅～作ってわくわくアジア編～
コミュニケーション マーケティング 経営	澤崎 敏文	<ul style="list-style-type: none"> ●効果的なプレゼンテーション手法について ●地域におけるマーケティングのあり方について ●ソーシャルメディアとビジネスの活用 ●地域ビジネス、企業等におけるマネジメント ●企画立案、広報手段について ●コミュニケーションのあり方 ●キャリアデザイン、学びと学習環境等
教育学 学習科学	田中 洋一	<ul style="list-style-type: none"> ●保育者のためのパソコン教室 ●幼稚園における視聴覚教育研修 ●eポートフォリオ活用の研修 ●アクティブ・ラーニングのための授業設計の研修 ●木製ロボットとプログラミングで遊ぼう！
データサイエンス 情報工学	辻岡 和孝	<ul style="list-style-type: none"> ●Pythonを用いたデータサイエンス講座 ●EXCEL基礎・応用講座 ●AIチャットボット作成講座 ●DX導入講座
英語教育 第二言語習得論	野本 尚美	<ul style="list-style-type: none"> ●洋楽で英語を学ぼう ●幼児向け英語教室 ●小学生向け英語教室 ●世界のお菓子で英語旅～作ってわくわくアジア編～ ●Autumn English Camp ―自然の中で英語を学ぼう！
テキスタイルデザイン	前田 博子	●地域社会とデザイン・アート「繊維とデザイン」
デザイン	吉村 正照	<ul style="list-style-type: none"> ●小枝でゲームをつくろう ●効果的なスライド等の表現に関する講義 ●グラフィックデザインの基礎

● 幼児教育学科

(五十音順)

専門分野	氏名	講演や講座のテーマ・内容など
保育学 保育者養成教育	石川 昭義	<ul style="list-style-type: none"> ● 福井県保育士等キャリアアップ研修「マネジメント」(人材育成) ● 保育士スキルアップ研修(保育の自己評価と第三者評価) ● 東海北陸保育研究大会「福井大会」 (第8分科会: 公立保育所・公立認定こども園等の使命と地域社会での役割) ● 敦賀市研修会(保育の新たな地平―「指針」が映し出す時代とともに―) ● 福井プレカレッジ(現代の保育学を探究する) ● 京都府保育協会キャリアアップ研修「マネジメント」(実践研究の取組の意義、やり方について) ● 近畿ブロック保育研究集会京都大会 (第7分科会: 保育の社会化にむけて―保育の営みをいかに社会に発信するか―) ● 東海北陸ブロック次世代保育リーダー養成セミナー(次世代育成施策、保育者の養成について) ● 石川県保育部会研修(保育士育成における養成校・現場・行政の連携のあり方を考える) ● 教科書「家庭基礎」を通して「保育」を学ぶ
仏教学 仏教保育学 おもちゃ学	香月 拓	<ul style="list-style-type: none"> ● 新人保育者スキルアップ「新聞紙で遊ぼう」 ● こどもの成長とおもちゃあそび ● メンタルケア・スペシャリスト養成講座「死生論I」 ● 子育て講座「おもちゃで育む親子のふれあい」 ● 自分とは何か―お釈迦様のことばに学ぶ― ● 人生は楽しいもの? 苦しいもの?―お釈迦様のことばに学ぶ―
幼児教育 幼小接続	川崎 恵理	<ul style="list-style-type: none"> ● 遊びの中の学び ● 5歳児から1年生というとらえ方 ● 今求められる保育実践 ● 今求められる保育教諭のあり方 ● 園評価について ● 遊びと学びの実践研修、気になる子がいるクラスでの関わり方 ● 就学前に向けての心構え ● 幼稚園教育要領解説 ● 幼児の発達に応じた保育内容教育 ● 小学校入学にあたって ● 就学前講座
音楽教育 ピアノ教育 ピアノ演奏	木下 由香	<ul style="list-style-type: none"> ● 親子のための虹色コンサートin大野「手作り楽器ワークショップとミニコンサート」 ● ポルタDe' ファツィオリ「ピアノふれあい体験」 ● 聴いて、見て、動いて楽しむ! 0歳からのクラシックコンサート ● いしかわ・金沢 風と緑の楽都音楽祭 ● AOSSA子育て支援室「子育て講座」 ● Fukui Art Baton (R2) ● 親子で簡単♪手作り楽器を楽しもう! ● 越前まなぼう座「親子でわくわく子ども教室」親子で一緒に! 手作り楽器を楽しもう! ● ピアノで奏でる絵本の世界 ● まちかどコンサート ● ステージできくはじめてのコンサート ● 手作り楽器ワークショップ ● 越前市幼稚園教育研究部夏季研修「リトミック、リズム遊び」 ● 母と子のピアノコンサート～ピアノで奏でる絵本の世界～ ● 小松市ピアノコンクール受賞者の為の「木下由香先生のワンポイントレッスン」 ● 絵本専門士が贈るピアノと読み聞かせで綴る絵本コンサート ● 福井市公私立園年齢別担当職員研修「音や音楽に関わる表現を楽しむ」について ● 楽器であそぼう! ● 勝山市さわやか大学講座「大人のための朗読会 読み聞かせとピアノ演奏のコラボ」(● 絵本の読み聞かせとピアノのコンサート ● 出張音楽堂
スポーツ心理学 メンタルトレーニング	鮫嶋 優樹	<ul style="list-style-type: none"> ● アスリートの実力発揮のためのメンタルトレーニング ● 保護者のためのメンタルトレーニング ● 子どもに対する効果的な関わり方 ● いまから使えるメンタルトレーニング - 1歩踏み出せる子になるチャレンジの育て方- ● 大学受験に向けたセルフメンタルケア講座 ● 就活に向けたメンタル強化術 ● 人間関係構築のためのチームビルディング ● 「心を鍛える」暮らしを豊かにするためのメンタルトレーニング

専門分野	氏名	講演や講座のテーマ・内容など
幼児造形指導法 洋画制作 洋画原書翻訳 明治期日本における 洋画の受容	重村 幹夫	<ul style="list-style-type: none"> ● 明治前期の油絵技法材料について ● クレヨンで動物を描きましょう ● 造形を通した子どもとの関わり方 ● 幼児造形の指導法 ● 小学校低学年児童が作って遊べる遊具 ● 幼児の造形や既習能力に応じた造形活動のあり方について ● 幼児の主体的な造形活動のために - 「造形遊び」を中心に - ● 木などを使った造形あそびに挑戦してみよう
児童発達支援 特別支援教育	中尾 繁史	<ul style="list-style-type: none"> ● 気になる子への支援教材の作り方 ● 子どもの『あのね』を引き出す関わり方 ● 情報共有のための観察と記録の視点 ● 『気になる子』への対応
日本文学 日本児童文学 絵本	前田 敬子	<ul style="list-style-type: none"> ● 保育者ワークショップ 書くこと、読むことの保幼小連携 ● 保幼小接続講座・絵本の世界 ● 恋する山川登美子 ● 伝わる文章の書き方 ● 感想文の書き方 ● 歌う金子みすゞ ● 絵本や物語に親しむ ● 加古里子の絵本
保育学・教育学 保育・教育思想史 保育・教育方法学 保育者論	増田 翼	<ul style="list-style-type: none"> ● 4歳児の育ちについて ● 外国籍の子どもや保護者は何に困っているのか ● 指導要録 保育要録について ● スマホ育児 ちょっとだけでも分かっておきたいこと ● 子どもの遊びの理解と支援 ● 気がかりな子を包み込む集団づくり ● 連絡帳の書き方 ● 保育における環境構成 ● 5領域 10の姿について ● 保幼小連携について ● 歌う楽しさの原点にあるものは？ ● 子どもが対話する保育 ● 保育で使える動画編集 ● 「保育ドキュメンテーション」って、どういうこと？ ● 子どもの姿を捉える、とは言うけれど… ● カイコを育ててみよう！ ● しつ付けて難しいですよ？令和時代における子どもとの距離感 ● 幼稚園教諭・保育教諭等キャリアアップ研修 ● 指導計画・記録内容と日々の保育実践とのあいだ

SOCIUS [ソシアス] No.20

2026年3月31日 発行

仁愛女子短期大学 総合学務センター
入学・地域支援課 地域連携室

〒910-0124 福井市天池町 43-1-1
TEL.0776-56-1133
E-mail jissen@jin-ai.ac.jp



仁愛女子短期大学

総合学務センター
入学・地域支援課 地域連携室